



津軽石中との合唱交流



合同合唱の様子



説明する生徒会



応援活動の披露



指導するリーダー

昨年度より県教委の指定を受け取り組んでいる「復興教育事業」の一環として、今年も宮古市立津軽石中学校と合唱交流を行いました。感染症の蔓延を受け一時は中止を考えましたが、時期をずらして開催できました。本校からは、現生徒会メンバーと特設合唱部、1, 2年生のリーダーが参加しました。始めに、津軽石中の生徒会活動や郷土芸能の取り組みが紹介され、今週末の文化祭で発表する全校合唱「いのちの歌」が披露されました。この曲は、震災以後、歌い継がれているとのことで、歌詞の内容から津軽石中生の思いが伝わってきました。本校からは、「5つの合言葉」の説明や応援活動・特設合唱部の発表が行われました。その後、両校が入り交じっての合唱練習では、本校の合唱リーダーが中心となり、発声や抑揚のつけ方について細かく指導がありました。その甲斐あって、仕上げで歌った「アメイジング・グレイス」は、会場が一体となり響きのある良い合唱になっていました。



元職員の菅原先生

津軽石中の校長先生からは、「合唱だけでなく、挨拶やお辞儀、立ち居振る舞いの全てにおいて見習うことが多い。津軽石中生は大いに刺激を受けた。」とのお褒めのお言葉をいただきました。両校に刺激となる交流会となったようです。来年の2月2日には、交流の様子の県発表があります。

【全校朝会での奥玉生徒会長のあいさつ】

昨日、北中の代表として、生徒会と特設合唱部、1, 2年生の代表が津軽石中学校に行って合唱交流や学校紹介をしてきました。そこでは、津軽石中学校の紹介もあり、伝統として受け継がれている郷土芸能のムービーや全校合唱「いのちの歌」の披露をしてくださいました。どちらも先輩方や様々な方の思いが込められていて、とても素晴らしかったです。合唱交流では、共に「アメイジング・グレイス」に取り組み、心をついに合唱に取り組みことができました。そして、たくさんのお話を学び合うことができました。その他にも津軽石中学校からは、聞く姿勢や態度など多くのことを学び、刺激を受けるよい機会となりました。私たちが津軽石中生に負けないよう、普段の生活から「岩手県一の学校」を目指して頑張ります。